

浅井 葉子 議員



狭い道路の解消と、危険な通学路へ緑のおばさんの配置を

問

次の狭隘道路（＝狭い道路）等について尋ねる。

- (1) 市道の路線数、狭い道路の距離数、把握の方法は。
 - (2) 1月の市街地での火災で、鉄道付近の消防活動が困難だったことへの改善点は。
 - (3) 狭隘道路の拡幅で、地権者に土地買収や門扉などの補償等の支援を手厚く行う自治体もある。同様に取り組んではどうか。
 - (4) 児童・生徒の安全を確保する上で、通学路の歩道設置が必要ではないか。
 - (5) 平島地区の県道富島津島線は、桜小学校の通学路だが、歩道もなく交通量が多く危険である。
- こういった危険個所に、交通養護員（＝通称緑のおばさん）配置の予算措置を考へてはどうか。

答 開発部長

(1) 1,880路線で総延長は約550km、そのうち3.5m未満の道路は約189kmで、全路線の幅員等を道路台帳で把握している。

答 防災安全課長

(2) 地区からの申請により、消火栓を1カ所設置することになっている。

答 市長

シルバー等、外部団体を含めて検討していきたい

(3) 狭隘道路が約30%あるので、これからも計画的に進めていきたい。買収等は適正価格があるので、基準に基づき交渉したい。

(4) 今後も児童・生徒に対する安全を考えながら進めていきたい。

(5) 登下校の安全対策は地域住民に協力してもらっている。そういった中でシルバー人材センター等外部団体を含め、今後検討していきたい。



県道富島津島線(綱浦町地内)

常設の資源回収所の設置を

問

日進市には、シルバー人材センターに委託した職員常駐の資源回収施設「エコドーム」があるが、市にも常設の資源回収ステーションを設置してはどうか。

従来通りの収集を基本としたい

答 環境課長

不法投棄の問題もあるので、民間方式による収集形態を基本とし、循環型社会を実現していきたい。

地震時に備えた職員の訓練は

問

地震時の迅速な初動体制の確立等は重要である。職員対象の防災訓練を行っているのか。

20年は実際の行動訓練を心掛けた

答 市長

過去にも何度か訓練をしているが、ぜひ20年の事業計画の中に、実際行動としての訓練を心掛けていきたい。